

「食品ロス」ってなんだろう？

— たくさんの食べものが捨てられているって本当？ —



どうして食べものが捨てられているの？①

食べられるのに捨てられている



たくさんの食べものが捨てられてしまうのはなぜでしょうか？



毎日お茶わん1ばい分を捨てている

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」といいます。

日本で2018年の1年間に食品から出る生ごみのうち、食品ロスの量は、約600万tです。

これは日本でくらす人全員が1年間に47kgの食べものを捨てていることになります。1日あたりでは、毎日茶わん1ばい分のごはん約130gを捨てている計算です。

600万tの食品ロス!



一人あたり1年で47kg捨てている

中学1年生女子の平均体重とほぼ同じ



おくまん $\times 1$ 億2000万 $\times 365$ 日

日本でくらす人約1億2000万人が毎日茶わん1ばい分のごはんを捨てているのと同じ

そんなにあるの!?



もったいない



※出典 | 令和2年度学校保健統計調査

食品ロスはこうして起きる

日本で1年に出る食品ロス600万tのうち、約半分は食品メーカーや小売店、飲食店などの事業者から出ています。そしてもう半分は家庭から発生しています。

家庭から食品ロスが起こる原因は大きく分けて3つあります。1つは料理を食べきれずに残して

しまう「食べ残し」です。2つ目は「直接廃棄」といって、手をつけずに捨ててしまう食べものです。3つ目は野菜の皮や魚の骨など、食べられない部分を取りのぞくときに、必要以上にたくさんとりのぞいてしまう「過剰除去」です。

① 食べ残し

量が多く食べきれない、好みにあわないといった理由で捨ててしまう食べもの。



② 直接廃棄

賞味期限が切れたといった理由で、手をつけずに捨ててしまう食べもの。

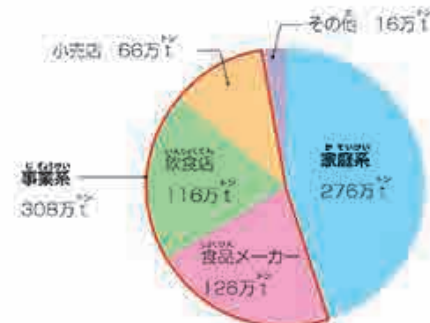


③ 過剰除去

食べられるのに、調理するときに取りのぞかれてしまった部分、野菜の厚くむきすぎてしまった皮、肉のあぶらみ、魚の骨のまわりについた身など。



日本で1年間に発生する食品ロス
(平成30年度推計値 農林水産省調べ)



食べ残しも食品ロスの原因なんだね...

食品ロスは、わたしたちのところに食べものが運ばれてくる前から起きているの。これからいっしょに見ていこうね!



でも600万tなんて、信じられない。

食べものはどこから来るの？



食べものは農家や漁師、食品メーカーの人、小売店の人などたくさんの人を通してわたしたちのところに運ばれてきます。



生産者

農家や漁師のことを生産者とよぶ。農家には農作物を育てる人と、ウシ・ブタ・ニワトリを育てて肉として出荷したり、牛乳や卵をとったりする人がいる。漁師は漁に出て魚などの水産物をとる。



運ぶ

生産者は近くの協同組合や産地市場というところに生産した農作物や水産物を持ちこみ、そこから大きな市場まで運ばれる。



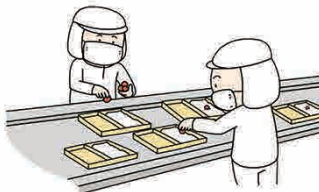
市場

市場に運ばれたものを卸売業者がまとめ、仲卸業者に売る。仲卸業者は質のよい肉や魚、野菜を選んで仕入れ、食品メーカーやスーパーマーケット、飲食店などに配送する。



食品加工業者

冷凍食品や缶づめ、べんとう、おかしなど、手軽に食べられる食品に加工する。食品メーカーが行うこともある。



長い旅をする食べもの

わたしたちが食べている食べものは、どれも農家の人が育てた農作物や家畜の肉、漁師が海でとってきた水産物です。

食べものはまず農家や漁師から出荷されます。外国から日本に運ばれてくるものもあります。こうした食べものは市場で取り引きされてスーパーにならびます。食品メーカーなどで加工されるものもあります。食べものを飲食店の人や家の人な



毎日食べている食べものには、たくさんの方がかかわっているの。感謝して食べようね。



飲食店

レストラン、ファーストフード店など。肉、魚、野菜などの材料を仕入れ、調理をして、お客さんに提供する。



小売店

わたしたちに直接食べものを販売するスーパーマーケット、コンビニエンスストアでは、市場や食品加工業者から商品を仕入れて店にならべ、販売する。



家庭など

スーパーマーケットやコンビニで食べものを買って、そのまま食べたり、調理をして食べたりする。



どの人も食べものは捨てたくないはずだね。



次のページから食べものにかかわっている人にインタビューしてみよう。

